

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*電動機械式計算機「フリーデン」收藏

国立天文台ではいろいろな計算機が使われてきた。計算機の歴史を語ればそれだけで大変な著作が書けるであろう。筆者が国立天文台の前身の一つである東京天文台岡山天体物理観測所に就職した頃使われていたものと同じと思われる電動機械式計算機「フリーデン」を收藏した。今回收藏したものは筆者が使ったことのある計算機ではない。基本的には機械式計算機の体表的なものの「タイガー計算機」にモーターをつけて電動にしたようなもので、「ガチャガチャガチャッ、ガチャガチャガッチャン」と大変大きな音を発していたことを覚えている。收藏したもの(写真1)の重量を測ってみたら18kgあった。



写真1 電動機械式計算機「フリーデン」

岡山天体物理観測所では、188 cm反射望遠鏡の主鏡の再蒸着を行うごとにハルトマン常数というのを求めていた。ハルトマン検査の像はコンパレーターという座標測定機で測り、測定結果を計算するためにこのような計算機を使っていた。当然ほかの用途もあったであろうが筆者が実際に使ったのはその目的であった。天文台ではまずは対数表を使った計算、次には計算尺、それらと並行してそろばんが使われていた。そのうち機械式手回し計算機が使われ、古在先生は手回し計算機の回す速さはだれにも負けないと自慢されていた。この手回しがモーターに置き換わったもので、当時、岡山天体物理観測所にあった自動車(プリンス・スカイウェイ)とほぼ同じ価格だと聞いた。筆者の初任給が8300円のころ65万円ほどだったと記憶している。こんなものがよくも残っていたものだと思う。持っておられたのは光赤外研究部の相馬氏である。ご本人はおそらく使用したことはなく、先人から引き継いで、部屋を替わるたびに引っ越し荷物として持ち運んだのであろう。埃がひどい状

態であった。電源ケーブルもないから動くのかも分からないが、天文台の計算機の変遷を伝える貴重なものといえる。

写真2は裏面に書かれた名盤、写真3は側面に書かれた名盤である。



写真2 裏面の銘盤



写真3 側面の銘盤

写真2の「No. 12 34. I」は備品番号が計算機のNo. 12で昭和34年1月購入と読める。写真3のQ-12は東京天文台の備品番号である。計算機の備品記号が「Q」であった。天文機器資料館に展示してあるタイガー計算機は「Q-ロー50」などの番号がついている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp